

## 「服装の乱れは心の乱れ」

ちょっと古くなりましたが、5月の終わりにJFAアカデミー福島を見学してきました。男子寮には、選手の部屋の他に食堂やお風呂、乾燥室、ミーティングルーム、スタッフルーム、ロッカー、トレーニングルーム(現在は中学生の選手しかいないので使っていない。)図書室があり、充実した施設でした。

その玄関の内側のドアには、「服装の乱れは...」の言葉が張られていました。「学校の寮みたい...。」って思いましたが、当たり前、中学生の寮なのです。アカデミーのスタッフが選手に何を求めて生活させているか、将来の代表選手はもちろんですが、アカデミーのフィロソフィーがここにもあるように感じました。アカデミーの選手は、毎日このドアを開けて登校します。(練習場にはスパイクの置いてある別の部屋から出て行くのでそのドアには、また別の言葉が書いてありました。)

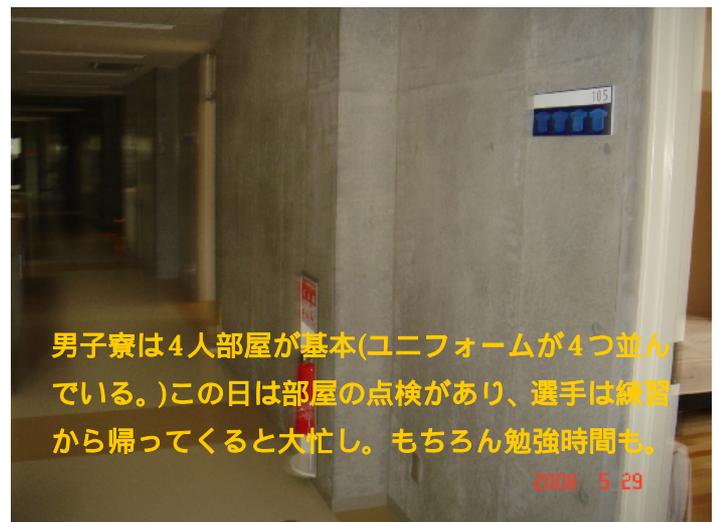
U-14の練習はこの日1時間だけ。風邪で休みの選手もいて、コンディションがよくないということでしたが、1時間の練習の密度はとても濃いものでした。目標の高い選手達ですから、無駄話をしないのはもちろんですが、トレーニング中に止まっている選手がいません。給水も2分以内で常にプレーし続けています。選手は状況に合わせてボールを扱いながら、ゆっくりと走る、ダッシュするの繰り返しですが、その中でパスの精度が落ちないのは本当に凄いと感じました。毎日のトレーニングの質がこの選手達のクオリティを保っているをつくづく感じさせられました。釧路のトレセンの選手も10分くらいなら同じようにプレーできるかもしれませんが、それ以降は極端に精度が下がります。これが3年間繰り返されたときにどれだけの差になるかは想像ができません。同じように能力を持った子どもたちを預かっているものとして責任を痛感させられて帰ってきました。

(ピッチの内外で密度の濃い要求があるのでフラストレーションがたまっている選手も見られましたが、それもこの年代の選手の特徴かもしれません。次の年代でプレーしていくためには、多くのことを乗り越えて自立していくことも必要なことです。釧路でもサッカーに関わる大人が協力してよい環境をつくっていくことが大切だと思います。)

壁や階段のアチコチにフランス語やプロ選手の言葉が並び、学校みたいな...。



男子寮は4人部屋が基本(ユニフォームが4つ並んでいる。)この日は部屋の点検があり、選手は練習から帰ってくると大忙し。もちろん勉強時間も。



U-14の練習。この日は雨のため雨天練習場で行われた。この他に人工芝の練習場が一面。当日は選手のコンディションもあり、練習は一時間だけ。誰も足を止めない!

